

勝田製作所 コンピュータ断裁機を導入

作業性・断裁精度が向上

「ソフトクランプ機能」の安全性を評価

荷札・下げ札・タグ専門のTAG(株)(本社/名古屋市中川区、伊藤栄記社長)は2016年1月(株)勝田製作所のコンピュータ断裁機「SH250 HOP JMC 4FX」を導入した。印刷から断裁、荷札加工までを一貫生産する同社では、約32年前より勝田製作所の断裁機を使用してきたが、今回の新機種導入により作業性と断裁精度のさらなる向上を実現。これにより工場全体の品質・生産性の向上にもつながっているようだ。

TAG

同社は約70年前に伊藤 6月に150×280ミリの祖父が荷札加工専門業として創業。現会長 伊藤社長は 13年6月には30×60ミリの後を継ぎ、伊藤社長は 8年前に3代目に就任し、同時に荷札だけでなく下げ札などタグ全般を取り扱う企業として現社名に商号変更した。

同業者との競争が激化する中、同社は近年、毎年約1000万円を設備投資に充て、高品質なタグの生産が可能なようにしている。2012年、また、同社は生産性だ

けではなく、品質にも自信を持っており、伊藤社長は「最新の荷札加工機には検品装置が搭載され、品質が向上しているが、当社では加工のスピードを落とし、人の目でのダブルチェックで検査することにより万が一のミスも出さないうに心掛けている。この数年で導入した新しい機種は生産ロスや準備時間が少なくて済むため、加工スピードを落とし、加



「品質には自信があります」と同社スタッフ(後列左が伊藤社長)

ながら受注範囲をさらに広げていく考えだ。色・デザイン、情報提供なども評価

同社では、約32年前より勝田製作所の断裁機を使用して、これまでの断裁機にもコンピュータは搭載されてきたが、あまり使

うことはなく「ほとんど」(伊藤社長)という。伊藤社長は勝田製作所の断裁機について、「品質の安定を図っていくソフトクランプ機能」を高く評価。これについて使用する必要性を感じているように話す。

「当社ではネパール人を正社員として雇用して、外国人の場合、機械の操作方法を説明して、どこまで理解しているかが分かっていくという。そのようなことも、断裁作業については、勝田製作所の断裁機には「ソフトクランプ機能」が搭載されており、手が挟んでお



外国人オペレーターでも正確・安全に作業が可能な勝田製断裁機

も大きな効果を実感している。伊藤社長は「これまででは工数入力が多いが、勝田製作所の断裁機は白と青のツートンカラーで、見た目の色を出してくれるので、作業の短縮につながり、全体の生産性向上にもつながっている。当社はこれに特注で赤色も追加してもら

「印刷機や断裁機などは全般的に油の色が目立つが、コンピュタに入力すれば自動で断裁寸法を断裁機は白と青のツートンカラーで、見た目の色を出してくれるので、作業の短縮につながり、全体の生産性向上にもつながっている。当社はこれに特注で赤色も追加してもら

「これまででは工数入力が多いが、勝田製作所の断裁機は白と青のツートンカラーで、見た目の色を出してくれるので、作業の短縮につながり、全体の生産性向上にもつながっている。当社はこれに特注で赤色も追加してもら

他社の機種より安全性に行えるため、断裁精度も優れていると判断した。確かに向上した。さらに「ソフトクランプ機能」を導入し、従来のような断裁作業は、断裁機は白と青のツートンカラーで、見た目の色を出してくれるので、作業の短縮につながり、全体の生産性向上にもつながっている。当社はこれに特注で赤色も追加してもら